

1317

小松原 特報 第一號  
部隊本部

火災事件ニ關スル特別報告

昭和十四年一月二十四日 第二十三師團長 小松原 道太郎

陸軍大臣 板垣 征四郎 殿

首題ノ件陸軍報告規程第四條第三項ニ依リ別紙ノ通り提出ス

昭和十四年  
14.2.8-  
59号

陸軍部  
14.2.8

陸軍部  
14.2.6  
補任課

第二十三師團長  
小松原 道太郎

陸軍部  
14.2.5

陸軍部  
14.1.30  
兵務課

火災事件ニ關スル特別報告

陸軍

一 出火場所

歩兵第七十二聯隊銃鍛革具工場

二 出火及鎮火ノ月日時

出火 昭和十四年一月十八日 九時三十分頃

鎮火 同 十三時三十分

三 原因

火災中ハ屋内ニ煙充滿シアリテ査察不可能ナリシト鎮火後ニ於テ天井板燒失落下シタル等原因ノ判定資料ニ乏シク之カ判断不可能ナルモ尤記事項ヲ綜合觀察シペーチカニ依ルニ非サルヤト思考ス

尤記

ノ漏電ニ就テ

被害建物ニ高壓電線及電燈線ヲ引込ミアル  
 毛前者ハ目下作業休止中ニシテ使用シアラス  
 又分電盤ノスヰツチヒューズ線ハ完全ニ残存シア  
 リテ火災ノ原因名高壓電流ノ通シタル跡ヲ認  
 ムス

猶配線電氣抵抗検査ハ昨年九月関東軍  
 經理部派出所ニ於テ實施セラレタルモノニシテ異狀  
 無カリシモノト判断ス

2. ペーケカニ就テ

ペーケカハニ室兼用昭和八年竣工ノモノニシテ其頭  
 部中間間仕切ノ施工方法ハ別紙見取圖ノ如  
 ク現行関東軍建築設計要領ト相違シ間  
 仕切内部ニアル木部ハペーケカ頭部ニ積込マレ  
 アルト又煙ノ出テタル形跡無キモ上層煉瓦積目

地ニ小ナル間隙ヲ生シアリ然レトモ該間隙ハ從來ヨリ生シアリタルモノナルヤ或ハ火災ノ爲ニ生シタルモノナルヤハ不明ナリ

而シテ該木部及煉瓦積間隙ハ塗壁及漆喰痕リ被覆セラレアルヲ以テ外部ヨリ見ルヲ得サリシモ長年月ノ間木部ハ燻焦炭化シテ引火ノ原因ヲ爲シタルモノニ非サルヤ猶又燒失落下シアル天井板ノ燃燒狀況ヲ見ルニ其ノ炭化ノ狀況ハペーケカ附近其ノ程度最モ大ニシテペーケカノ位置ヲ遠サカルニ從ヒ遂次其ノ程度低下シアルニ依リペーケカハ出火原因タリシニ非サルヤト思考スル程度ニ過キス

3. 其他ノ原因ニ就テ

出火部隊内務規定及宿直者ノ勤務狀態等ニ就テ聽取スルニ放火其他ノ原因ト認メ得ヘキモノ

ナシ

四、人馬死傷ノ狀況

ナシ

五、罹災建物並ニ物品ノ被害ノ狀況及程度

一、罹災建物煉瓦造平屋建七三、二二坪上屋燃焼  
 二、物品ノ被害ナシ

六、損害見積價格

約參千圓

七、延焼ノ理由

他建造物ニ延焼ナシ

八、狀況

當日九時五十分頃主任工長水野鍛工軍曹ハ革  
 具工場ニ於テ革具ノ修理品ヲ受領シ引續キ  
 銃(鍛)工場ニ於テ銃及劍ノ修理品ヲ受領シ事

務室ニテ傳票整理中（十時十分頃）同事務室天  
 井附近ニ異様ノ物音（ピシク）ヲ聞キシヲ以テ直ニ  
 電工具室内ニ至リ二人用机上ニ椅子ヲ重ネ天井  
 覆蓋ヲ開キシニ此時既ニ天井内面ニ煙充滿シテ  
 ルヲ發見シ相當程度ニ火災進行セルヲ判知シ倉皇  
 工務兵ニ名ラシテ衛兵所第二大隊ノ各中隊並ニ平野  
 部隊兵器委員事務室等ニ急報スルト共ニ残余ノ  
 工務兵十名ラシテ兵器修理品並ニ備付諸物品ヲ  
 醫務室北側ニ搬出スルト同時ニ消火ニ從事中演習  
 整列中ナリシ第二大隊各中隊平野部隊等駈  
 ケ着ケ消火ニ從事セリ  
 週番司令ハ直ニ衛兵司令ヲシテ火災號音ヲ吹奏セ  
 シメ週番副官ノ指揮ヲ以テ現場ニ至ラシメ消火ニ  
 任セシム

部隊副官ハ銃工場出火ノ報告ヲ受クルヤ小松原部隊本部小林部隊本部ニ報告スルト同時ニ憲兵隊海拉爾消防署ニ連絡ス

出火現場ニ在リテハ隊消防隊ノ外消防員協力カシ消火ニ努メタルモ如何セン。發火箇所カ天井壁ト壁ノ中間ナリシト大量ノ防火水ノ運搬十分ナラザリシト屋上破壊器具ノ不足等ノ爲消防手ノ多キニ比シ消火ニ意外ノ時間ヲ要シ爲ニ十三時三十分鎮火セリ

### 九 處置

1. 銃工場内ノ備付諸物品及修理品ハ鎮火ト共ニ銃工具修理品ハ蹄鐵工場ニ搬送シ備付諸品ハ銃工場東側「バラック」建物ニ收容ス

2. 鎮火後十四時ヨリ部隊副官、兵器(經理)委員、首座同委員現場ヲ檢證ス同時師團經理部

長兵器部長、經理部雇員、海陸商支庫長、立  
會シ憲兵分隊長以下隊員臨場ス

3. 鎮火後現場、週番司令同副官ノ指揮ノ許

一掃掃ヲ行ヒタリ

一。復舊ノ要否

至急復舊ヲ要ス

一一。責任者ノ処分

1. 歩兵團長、關係聯隊長ヲ内務ニ關ス部下

ノ指導監督周到ナラサル科ニ依リ輕謹慎一日

ニ處ス

2. 本事件ノ責任ニ就テ原因前記ノ如クシテ何等

壁内ニ於テ延燒狀態外部ヨリ發見スルヲ得

サルノミナラス外觀ヨリ見タル「パーケカ」亦不備ノ點

ナキヲ以テ平素ヨリ安心シテ使用シ居タルモノニシテ内



部ニ發火シタル場合ニ於テモ直ニ發見シ得ス壁間  
 ヲリ洩レシ煙ニヨリ始メテ判知シ得タル次第ナルヲ以テ  
 火災ニ関スル法文上ノ責任者トシテ週番諸官火元  
 取締責任者巡察者等ノ責任ニ属スルコトヲ  
 得ス又當時ノ當番勤務者ニ付調査セルモ敢  
 テ過度ノ焚方ヲナシタル形跡ナキヲ以テ責任ヲ  
 問ハサルコトナセリ

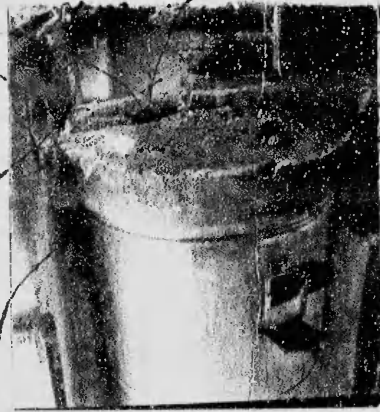
一三 其他必要ナル参考事項  
 ナシ

1326

1326

歩兵第七士聯隊火災事件現場寫眞

1327



空内換気孔

焼結した鉄板の上部

横埋道

ペーケの頸部/焼結の部  
(華具工場で見られる)

木摺  
漆喰  
この木摺下部は橋

この穴は煙の吸出し口で、ここから煙が橋の隙間に

ペーケの頸部/ここは煙の穴、無粉状になり推積し、ここを調査、為  
際去り、又ペーケの上部は遮断板以下、部分に於ては異状あり



焼結した鉄板の防熱を兼ねて  
該部を板の端火の取外し口とし、  
ペーケの火煙噴出、為、非ス

華具工場中央で見られるペーケ

1328

焼跡  
天井  
遺跡



焼跡の丸半柱ノ上部

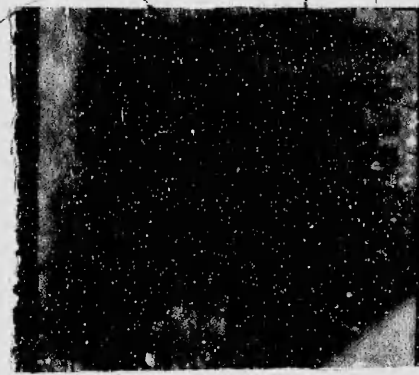
室内換気孔

パチカ頭部ニ積ルマレタ木部  
レコリ下ニ積アリ

事室ヨリ見カレパチカ頭部

パチカ頭部ニ積ル  
マレタ  
楯ノ跡

楯ノ焼跡



焼跡の丸半柱ノ上部

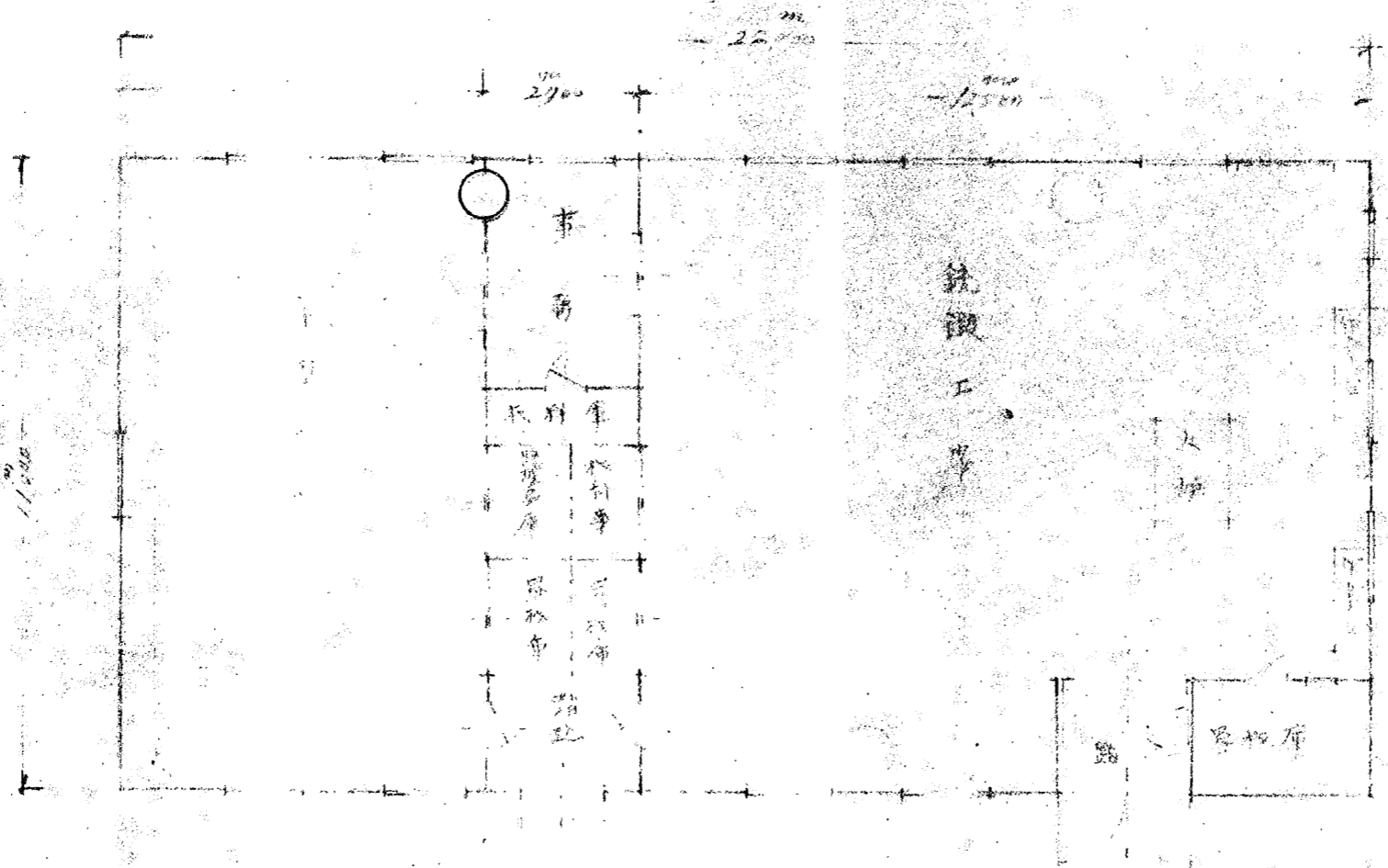
疎瓦積目地ノ空隙

パチカ頭部ヲ上ヨリ撮影



鏡鉸工場側ヨリ見カレ焼跡

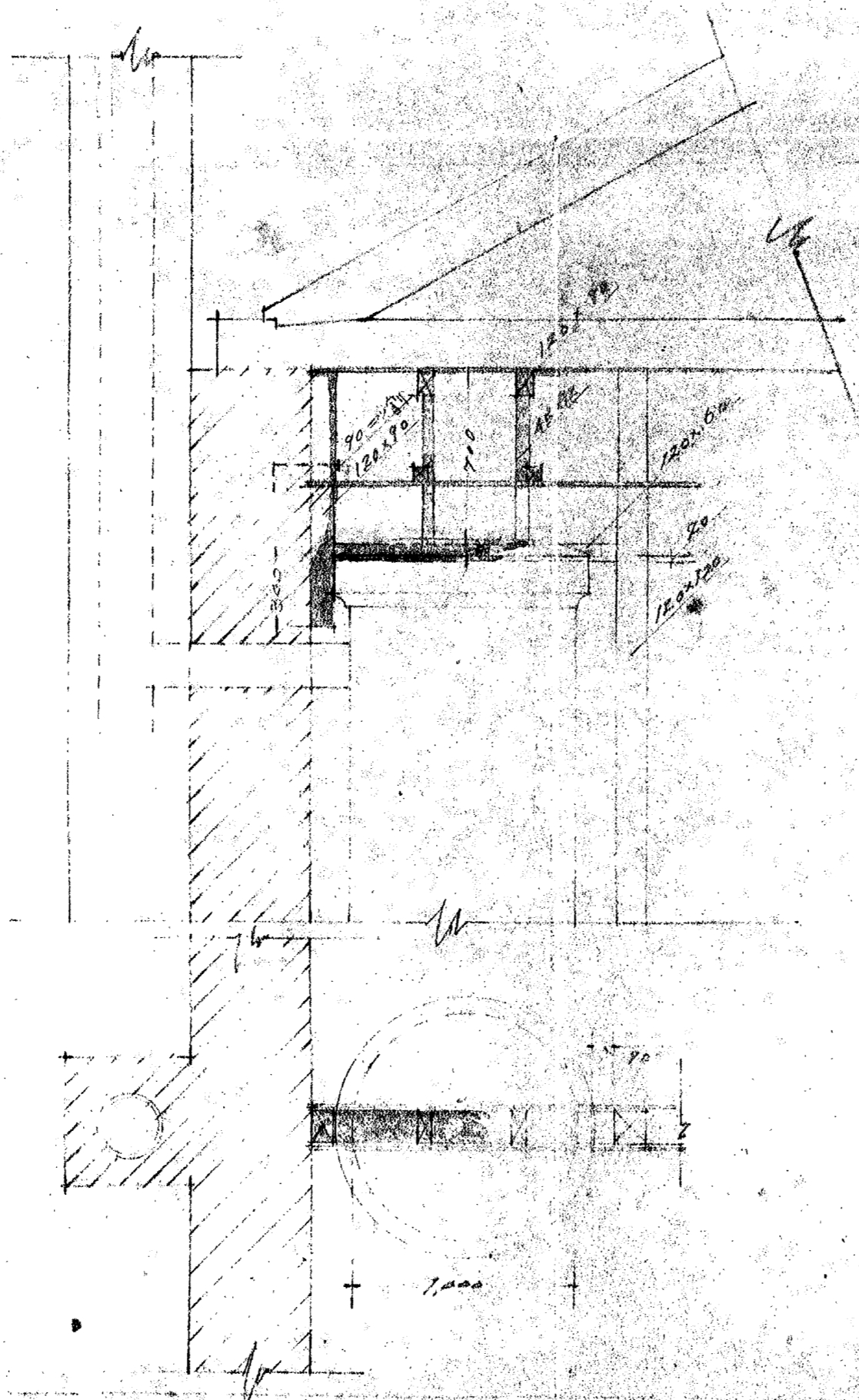
1329



凡例 ○ 坐火梁岡ト思考サレバトナクモテス

見取圖  
 鐵工  
 倉庫  
 大庫  
 1/100

1330



一ノケカ見取番

凡例



境矢々所ヨリ入